



発表項目 (行事名)	第6回 ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会の開催について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>道内の集落では、人口減少や高齢化の進行などに伴い、コミュニティ機能の低下など、様々な問題の深刻化が懸念されています。集落で安心して暮らし続けるために必要なことを、集落にお住まいの方々と、集落に力を貸してくれる様々な方々が一緒に考え、情報交換や親交を深めるため、次のとおり交流大会を開催します。</p> <p>1 日時 令和2年(2020年)1月30日(木)・31日(金)</p> <p>2 会場 TKP札幌駅カンファレンスセンター(札幌市北区北7条西2丁目9)</p> <p>3 プログラム(別紙チラシのとおり) ◆30日(木):基調講演、事例発表・パネルディスカッション、交流会 ◆31日(金):分科会(①移住 ②女性 ③若者)、ふるさとづくり相談会</p> <p>4 参加対象等 定員100名 どなたでも無料で参加できます。(1日目の交流会のみ、会費制(3,500円))</p> <p>5 申し込み方法等 添付のチラシに必要事項を記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。メールでお申し込みの場合は、必要事項をメール本文に記載してください。大会前日まで申込を受け付けます。</p> <p>6 大会ホームページ http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/shuuraku/kouryutikai01.htm</p>		
参考	<p>○ 1日目は、株式会社kedamaの武田昌大氏に「heat up ~+1℃する地域活性化~」と題して講演いただくほか、道内で積極的に集落対策に取り組んでいる団体による事例発表を行います。</p> <p>○ 2日目は、①移住、②女性、③若者の3つのテーマで分科会を行った後、集落の課題について有識者に相談できる相談会を開催します。</p>		

報道(取材)に当たってのお願い	道内各地域で集落対策や地域づくりに取り組む方々が一堂に会する大会です(昨年度は両日延べ約170名参加)。本年度も多くの方にご参加いただき、集落対策が促進されるよう、積極的な情報発信をお願いいたします。また、当日の取材もよろしく願いいたします。		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク	各総合振興局、振興局記者クラブ	

担当 (連絡先)	総合政策部 地域振興局 地域政策課 地域活力G (担当:高橋・高江洲) TEL 011-204-5791 (ダイヤルイン) (内線23-458) FAX 011-232-1126 E-mail sogo.chiseil@pref.hokkaido.lg.jp		
-------------	--	--	--

第6回

ほっかいどう

元気なふるさとづくり交流大会

～地域の魅力を活かす集“楽”づくり～

入場
無料

定員
100名

令和2年 1月30日 木・31日 金

TKP札幌駅カンファレンスセンター (札幌市北区北7条西2丁目9)

主催:北海道

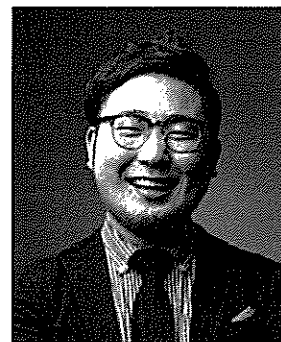
13:30～15:00 基調講演 (3階 カンファレンスルーム3B)

講師

武田 昌大 氏 (株式会社 kedama 代表取締役)

heat up ～ +1℃する地域活性化 ～

1985年、秋田県生まれ。少子高齢化・人口減少率日本一の秋田の活性化をミッションとし、2011年、株式会社kedamaを起業。秋田の農業の未来に危機感を持ち、若手米農家集団トラ男を結成し、お米のネット販売サイトを運営。2015年には、クラウドファンディングで約600万円の資金を調達し、茅ぶき古民家を活用した新ビジネス「シェアビレッジ」を立ち上げる。2017年には、東京都中央区日本橋におむすびスタンドANDONをオープン。人口減少の進む地方に必要な都市の人々を巻き込む仕組づくりを行い、交流イベントの開催で地方と都市を結ぶ新しい田舎づくりを実践し、広告費をかけない話題づくりになるコンテンツ制作も得意とする。



15:15～17:15 事例発表 パネルディスカッション (3階 カンファレンスルーム3B)



立川 彰 氏 (株式会社 道東テレビ 取締役)

「あなた輝くまちテレビ 道東テレビの挑戦」

静岡県出身。2016年、津別町に地域おこし協力隊として移住。インターネットテレビ局の株式会社道東テレビを立ち上げ、町民が自分たちのまちについて語り合う番組作りに取り組み、町のホームページから広報番組も毎月配信。津別町への移住定住促進に向け、コワーキングスペースやカフェバー、シェアハウスなど、空き家を利活用した関係人口創出の場作りも担う。



山形 巧哉 氏 (ハウモリ 代表)

「森町で40年暮らしてみた」

北海道森町生まれ。地元の高校を卒業後、森町役場へ入庁し、現在は情報システムを担当。クリエイター・コンプレックス ハウモリを主宰し、街を「いい感じにする」ことをライフワークとしている。想像し創造することが大好き。内閣官庁オープンデータ伝道師/総務省地域情報化アドバイザー。



松本 武 氏 (北見市 商工観光部 工業振興課 工業係 係長)

「テレワークで地方への人材回帰を実現! 『サケ(鮭)モデルプロジェクト』」

地元志向の強い北見工業大学の学生を、首都圏のIT企業本社で採用し育て、北見進出時の人材として、地元に戻りテレワークで働くモデルを市として推進。また、Uターンが見込める地元出身の大学生を対象に、ふるさとインターンシップなどを展開。テレワークの拠点を中心商店街に整備し、首都圏の人と仕事の誘引による地域経済活性化に取り組む。

コーディネーター



石塚 雅明 氏 (株式会社 石塚計画デザイン事務所 顧問)

北海道大学大学院工学研究科修了後、柳田石塚建築計画事務所を設立し、2002年に株式会社石塚計画デザイン事務所代表取締役、2017年には同社顧問に就任。まちづくりプランナーとして、地区の構想や計画の策定、地域コミュニティの形成サポート等を行うほか、まちづくりに関わる住民や行政職員向けの研修会も数多く実施。

17:30～19:00 交流会 (3階 カンファレンスルーム3C) 会費3,500円 (立食形式)

9:00~10:50 **分科会 (2階 カンファレンスルーム2F, 2H, 2I)**

○分科会発表者から取組発表後、参加者全員で意見交換を行います。傍聴のみの参加もできます。

分科会①【移住】



川村 昌代 氏 (NPO法人 上士幌コンシェルジュ かみしほろ暮らし担当マネージャー)

Uターンで上士幌町へ戻り、平成23年から勤務。生活体験モニター事業を通じた移住定住の窓口を担当し、9年目になる。体験モニター住宅は10棟あり、その管理運営を町と協力しながら一人で行っている。『誕生会(夕食持ち寄り会)』や『楽業市(フリーマーケット)』を移住者の人たちと開催するなど、町が元気になる活動に取り組む。

- ・ファシリテーター：石塚 雅明 氏 (株式会社 石塚計画デザイン事務所 顧問)
- ・アドバイザー：杉岡 直人 氏 (北星学園大学 社会福祉学部 教授)

分科会②【女性】



堀田 悠希 氏 (株式会社at LOCAL 代表取締役)

結婚を期に上士幌町へ移住・就農。お客様に身近な農家の仕組みづくりや農園の解放、マルシェを通して、農家としての在り方を模索。道の駅リニューアルオープンに合わせ、2017年に株式会社at LOCALを設立し、飲食事業を中心に、全体の企画や商品開発を行う。町民と協力し「上士幌らしさ」が伝わる道の駅を日々創り続け、地域でできることを少しずつ実現。

- ・ファシリテーター：松村 博文 氏 ((地独)北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 副所長)
- ・アドバイザー：井上 誠司 氏 (酪農学園大学 農食環境学群 循環農学類 教授)

分科会③【若者】



村下 知宏 氏 (株式会社 ユートライン 代表取締役)

1987年、浦河町生まれ。大学卒業後、東京都奥多摩町における地域づくり活動、地域づくりコンサルティング会社勤務を経て、浦河町にUターン。2013年に株式会社ユートラインを立ち上げ、地域、行政、都市を繋げる事業を展開。地域おこし協力隊の受入体制サポートや、地域内の団体・事業者の活動支援などに取り組む。

- ・ファシリテーター：原 文宏 氏 ((一社)北海道開発技術センター 地域政策研究所 所長)
- ・アドバイザー：鈴木 聡士 氏 (北海学園大学 工学部 生命工学科 教授)

	ファシリテーター	アドバイザー
① 移住	石塚 雅明 氏 (株式会社 石塚計画デザイン事務所 顧問) まちづくりプランナーとして、地区の構想や計画の策定、地域コミュニティ形成サポート等を行うほか、まちづくりに関わる住民や行政職員向けの研修会も数多く実施。	杉岡 直人 氏 (北星学園大学 社会福祉学部 教授) NPOへの貸し付けを専門とする日本初のNPO「北海道NPOバンク」の設立や運営、NPO推進北海道会議の運営に関わるほか、障がい者及び高齢者の就労のあり方問題の研究などに取組む。
② 女性	松村 博文 氏 (地独)北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 副所長 公営住宅を活かしたまちづくりや住み替えの促進、空き家を活用した集住化の取組や地域コミュニティの活性化に向けた手法の開発などに専門的な知見を有する。	井上 誠司 氏 (酪農学園大学 農食環境学群 循環農学類 教授) 北海道における農業の担い手、農地利用の動向や限界地における地域農業対応などに関する専門的な知見を有する。また、酪農・畜産地帯における支援システム導入などの研究を行う。
③ 若者	原 文宏 氏 (一社)北海道開発技術センター 地域政策研究所 所長 自宅から目的地までのモビリティ、アクセシビリティに関する造詣が深く、実際に交通手段の確保が困難となっている地域で課題解決に取り組むなど、地域交通に関する専門的な知見を有する。	鈴木 聡士 氏 (北海学園大学 工学部 生命工学科 教授) 自治体における地域公共交通の検討に深く関わり、地域に適した生活交通確保のあり方を探るなど、地域交通に関する専門的な知見を有する。

11:00~12:00 **ふるさとづくり相談会 (2階 カンファレンスルーム2H)**

○分科会のファシリテーター及びアドバイザーによる相談会を行います。

- 【相談員】
- ・石塚 雅明 氏 (株式会社 石塚計画デザイン事務所 顧問)
 - ・鈴木 聡士 氏 (北海学園大学 工学部 生命工学科 教授)
 - ・松村 博文 氏 (地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 副所長)

◆参加申込書 (参加するプログラムにチェック)

年 月 日

○必要事項を記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。

○メールでのお申し込みの場合は、必要事項をメール本文に記載してお送りください。

申込締切：令和2年（2020年）1月23日（木）必着

1日目 (30日)	<input type="checkbox"/> 基調講演 <input type="checkbox"/> 事例発表 パネルディスカッション <input type="checkbox"/> 交流会（会費：3,500円）
2日目 (31日)	<input type="checkbox"/> 分科会（①移住 ・ ②女性 ・ ③若者） 第1希望【 】 第2希望【 】 <input type="checkbox"/> 傍聴のみ ※ 申込み状況により第2希望とさせていただく場合があります。 ※ 参加者全員で意見交換を行います。傍聴のみの参加もできます。傍聴のみを希望される方は、チェックを記入してください。 <input type="checkbox"/> ふるさとづくり相談会 相談したい集落の悩み事等がありましたらお書きください。 希望の相談員がいましたら、併せて記入してください。 希望の相談員 _____ 氏
氏名：	所属：
電話：	E-mail：

お申し込み・問い合わせ先

北海道 総合政策部 地域振興局 地域政策課 地域活カグループ 担当：高江洲

TEL：011-204-5791（直通） FAX：011-232-1126

E-Mail：sogo.chisei1@pref.hokkaido.lg.jp

<ホームページ> <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ckk/shuuraku/kouryutakai01.htm>



会場アクセス

T K P 札幌駅カンファレンスセンター
（札幌市北区北7条西2丁目9）

<最寄駅>

○J R 札幌駅 北口 徒歩2分

※T K P 札幌カンファレンスセンターとは別会場ですので、ご注意ください。